

山梨県

長期欠席児童生徒家庭を支えるための

家庭環境実態調査

単純集計報告書

1 調査概要

(1)調査の目的

長期欠席の状態にある児童生徒を抱える家庭を対象に、長期欠席による家庭環境の変化や支援制度の利用状況、求める支援内容等を把握し分析を行うことで、当該家庭を支援するための実態に即した効果的な施策を構築することを目的とする。

(2)調査概要

山梨県における長期欠席児童生徒およびそのご家庭への支援策を検討するため、県内公立小学生から高校生の保護者を対象に、実態調査(web アンケート調査)を実施した。

図表:アンケート概要

調査対象	県内の公立小学校2年生～公立高校3年生の保護者
調査方法	web 調査
集計対象数 ※	771 件

※回答者のうち問3-1にお子さんが30日以上欠席した人数が1名以上の人を集計対象とした。

(3)調査期間

2025年7月8日—8月8日

2 調査結果の見方

集計で示すグラフは、円グラフが単一回答、棒グラフが複数回答の設問である。

3 調査サマリー

問2 お子さんの人数

お子さんの人数について、「2人」が最も多く42.0%、「3人」が13.0%、「1人」が9.5%となっている。

問3-1 お子さんが30日以上欠席した人数

お子さんが30日以上欠席した人数について、「1人」が90.9%、「2人」が8.7%となっている。

問3-2 長期欠席の状況(3人分合算)

長期欠席の状況について、「昨年度、連続ではないが年間を通じて三十日以上学校を欠席した。現在は欠席が減り、学校に通う事が出来ている」が最も多く27.4%、「昨年度、連続ではないが年間を通じて三十日以上学校を欠席した。現在も同じ頻度で欠席している」が25.6%、「昨年度、一週間以上連続して学校を欠席した期間があり、現在も行っていない」が25.5%、となっている。

問4-1 お子さんの学年(3人分合算)

お子さんの学年は、「中3」が17.8%、「中2」が12.4%、「中1」が10.4%となっている。

問4-2 お子さんの欠席傾向がみられた学年(3人分合算)

お子さんの欠席傾向がみられた学年について、「中1」が最も多く18.4%、「小1」が12.7%、「小5」が12.1%となっている。

問5 長期欠席の要因・きっかけ(3人分合算)

長期欠席の要因・きっかけ(3人分合算)について、「からだの不調」が32.5%、「気持ちが落ち込んだり、いらいらしたりした」が30.9%となっている。

問6 長期欠席時の保護者の感情(3人分合算)

長期欠席時の保護者の感情について、「自分のクラスに入れなくても、在籍校に登校できるようにしてあげたい」が最も多く40.8%、「在籍校に登校し、自分のクラスに入れるようにしてあげたい」が39.8%、「家庭で学校と繋がり、オンライン等で授業を受けさせてあげたい」が31.0%となっている。

問8-1-1 スクールカウンセラー利用有無

スクールカウンセラー利用有無について、「過去に利用したことはあるが、現在は利用していない」が最も多く48.6%、「現在利用している」が19.2%、「今は利用するつもりはないが、必要にすれば検討する」が11.0%となっている。

問 8-1-2 スクールソーシャルワーカー利用有無

スクールソーシャルワーカー利用有無について、「今は利用するつもりはないが、必要になれば検討する」が最も多く 33.5%、「どういったものか知らない、わからない」が 29.2% となっている。

問 9 学校(教育委員会)に求める支援

学校(教育委員会)に求める支援について、強く望むことは、「学校が安心できる場所になってほしい」が最も多く 61.0%、「在籍学校内に、教室以外の居場所をつくってほしい」が 46.7%、「学校外支援(教育支援センター、フリースクール、フリースペース・居場所など)と在籍学校の連携をしてほしい」が 42.5% となっている。

問 10 学校外支援(教育支援センター、フリースクール、フリースペース・居場所など)の利用状況

学校外支援の利用状況について、「今は利用するつもりはないが、必要になれば検討する」が最も多く 32.0%、「現在利用している」が 15.6%、「過去に利用したことはあるが、現在は利用していない」が 13.0% となっている。

問 11 学校外支援の利用状況

学校外支援の利用状況について、利用したことのある支援は「教育支援センター」が最も多く 51.8%、「フリースクール」が 33.2%、「フリースペース・居場所」が 27.7% となっている。

問 12-1 教育支援センターについて

教育支援センターについてについて、「お子さんが安心して過ごせる」が最も多く 57.0%、「支援者の対応が丁寧・信頼できる」が 47.4%、「費用面」が 46.5% となっている。

問 12-2 フリースクールについて

フリースクールについて、「お子さんが安心して過ごせる」が最も多く 72.6%、「他のお子さんと交流できている」が 58.9% となっている。

問 12-3 フリースペース・居場所について

フリースペース・居場所について、「お子さんが安心して過ごせる」が最も多く 60.7%、「支援者の対応が丁寧・信頼できる」が 47.5% となっている。

問 13 学校外支援の改善点

学校外支援の改善点について、「支援を受けられる場所を増やしてほしい(近場で支援を受けたい)」が最も多く 43.2%、「学校の出席や成績に繋げてほしい」が 37.7%、「進路の支援をしてほしい」が 29.1% となっている。

問 14 利用できない理由

利用できない理由について、「現状で特に問題ないから」が最も多く 36.0%、「心身の状態が通える状態ではないから」「通える範囲に施設がないから」が 16.8% となっている。

問 15 支援場所への希望

支援場所への希望について、「お子さんが安心して過ごせる」が最も多く 78.0%、「家から通いやすい／利用しやすい」が 68.2% となっている。

問 16 ケアに関与した方

ケアに関与した方について、「母親」が最も多く 72.0%、「無回答」が 12.8%、「その他」が 10.2% となっている。

問 17 支援時の感情、負担

支援時の感情、負担について、「お子さんの将来に対する不安について(保護者がお子さんの将来に対し不安を感じている)」が最も多く 62.3%、「お子さんの学習の遅れや家庭での学習対応の難しさについて」が 57.2% となっている。

問 18 相談相手について

相談相手について、「はい」(相談相手がいる人)が 75.4%、「いいえ」(相談相手がない人)が 10.5% となっている。

問 19 相談相手の具体例

相談相手の具体例について、「家族」が最も多く 74.9%、「学校の先生(担任の先生、養護教諭など)」が 62.7% となっている。

問 20-1 相談できなかった理由

相談できなかった理由について、「相談しても状況が変わるとは思えない」が最も多く 55.6%、「相談できる人が身近にいない」が 42.0%、「誰に相談するのがよいかわからない」が 39.5% となっている。

問 21 雇用形態の変化

雇用形態の変化について、「雇用形態は変化していない」が最も多く 54.6%、「無回答」が 14.9%、「就労していない」が 9.7% となっている。

問 22 雇用形態を変えた理由

雇用形態を変えた理由について、「業務上、仕事とお子さんのケアの両立が難しい職場だった

ため」が最も多く 61.1%、「自分の心身の健康状態が悪化したため」が 38.9%、「自身の希望としてお子さんのケアに専念したかったため」が 34.5% となっている。

問 23 働き方の変化

働き方の変化について、「遅刻、早退、中抜け、欠勤が増えた」が最も多く 43.2%、「休職や退職を検討した」が 21.7% となっている。

問 24 仕事と両立させるために必要なこと

仕事と両立させるために必要なことについて、「柔軟な勤務時間(登校支援・通院対応にあわせた出退勤調整など)」が最も多く 57.3%、「お子さんのケアに理解がある職場風土(同僚・上司の理解も含む)」が 43.2% となっている。

問 26 お子さまの長期欠席に対して、行政に望む支援

行政に望む支援について強く望むことは、「学校外支援(教育支援センター、フリースクール等)に通った場合でも、進学において不利にならないこと」が 51.2%、「学校内での教室以外の居場所(スペシャルサポートルーム・校内教育支援センターなど)の充実」が 43.3% となっている。

問 27 学校や行政からの情報

学校や行政からの情報について、「長期欠席状況にあるお子さんに関する行政支援・制度の情報」が最も多く 54.2%、「お子さんの心身のケアに関する情報」が 52.7% となっている。

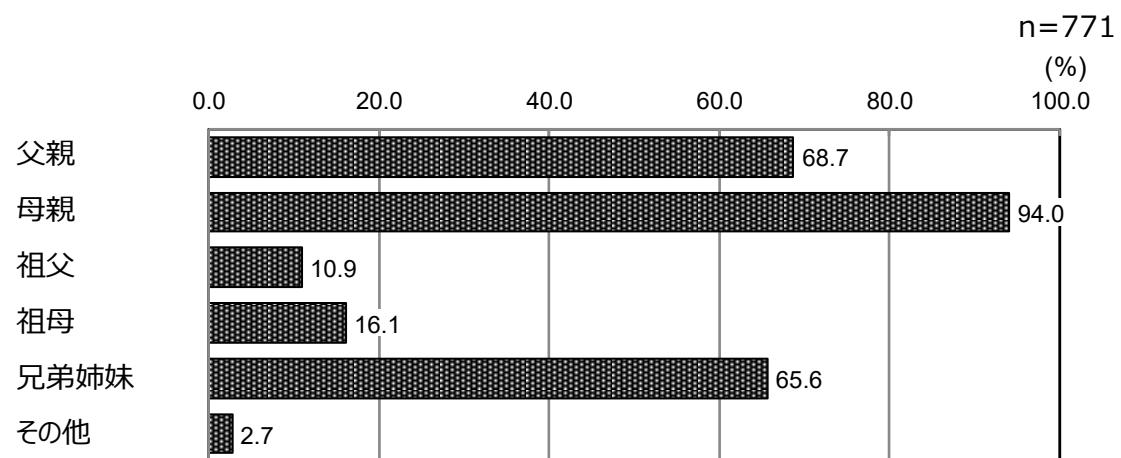
4 調査結果

問 1 家族構成	8
問 2 お子さんの人数	9
問 3-1 お子さんが 30 日以上欠席した人数	10
問 3-2 長期欠席の状況(3 人分合算)	11
問 4-1 お子さんの学年(3 人分合算)	12
問 4-2 お子さんの欠席傾向がみられた学年(3 人分合算)	13
問 5 長期欠席の要因・きっかけ(3 人分合算)	14
問 6 長期欠席時の保護者の感情(3 人分合算)	15
問 8-1-1 スクールカウンセラー利用有無	16
問 8-1-2 スクールソーシャルワーカー利用有無	17
問 9 学校(教育委員会)に求める支援	18
問 10 学校外支援(教育支援センター、フリースクール、フリースペース・居場所など)の利用状況	19
問 11 学校外支援の利用状況	20
問 12-1 教育支援センターについて	21
問 12-2 フリースクールについて	21
問 12-3 フリースペース・居場所について	22
問 12-4 その他の支援について	22
問 13 学校外支援の改善点	23
問 14 利用できない理由	24
問 15 支援場所への希望	25
問 16 ケアに関与した方	26
問 17 支援時の感情、負担	27
問 18 相談相手について	28
問 19 相談相手の具体例	29
問 20-1 相談できなかった理由	30
問 21 雇用形態の変化	31
問 22 雇用形態を変えた理由	32
問 23 働き方の変化	33
問 24 仕事と両立させるために必要なこと	34
問 26 お子さまの長期欠席に対して、行政に望む支援	35
問 27 学校や行政からの情報	36
問 28 追加ヒアリング調査への協力	37

問 1 家族構成

お子さんからみた家族構成(同居の家族)をお答えください。(複数回答可)

家族構成について「母親」が 94.0%、次いで「父親」が 68.7% となっている。

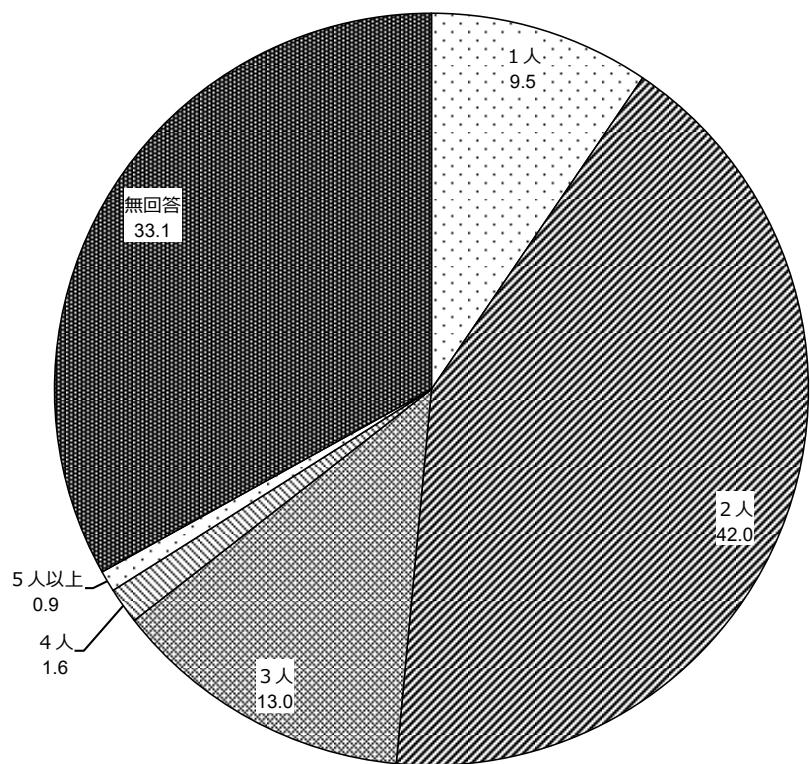


問2 お子さんの人数

2025年度、小学2年生から高校3年生までのお子さんは何人いますか。(単一回答)

お子さんの人数について、「2人」が最も多く42.0%、「3人」が13.0%、「1人」が9.5%となって
いる。

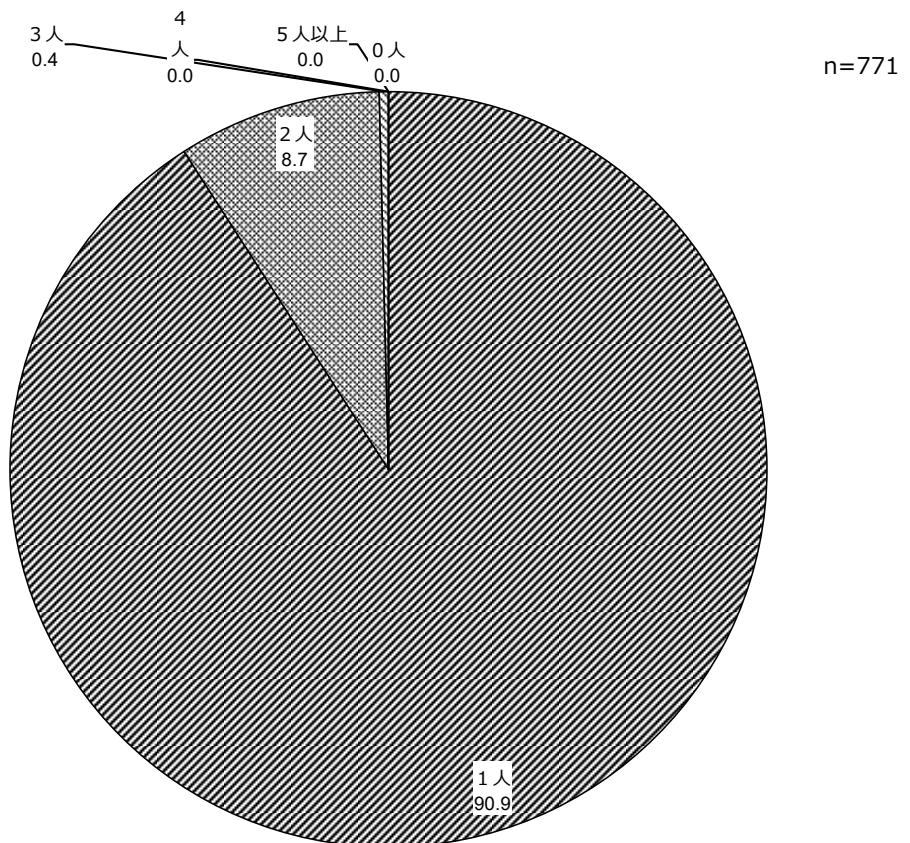
n=771



問 3-1 お子さんが 30 日以上欠席した人数

お子さんの中で昨年度に学校を 30 日以上欠席した方は何人いますか。(単一回答)

お子さんが 30 日以上欠席した人数について、「1 人」が 90.9%、「2 人」が 8.7%となっている。

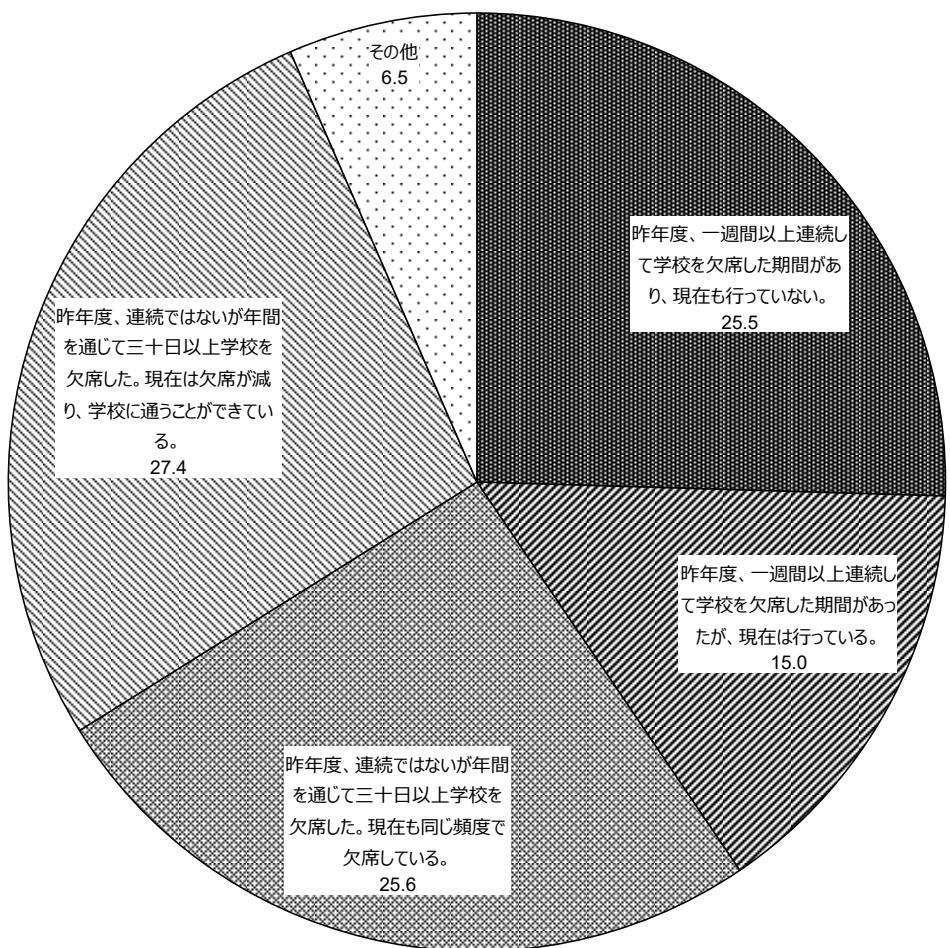


問 3-2 長期欠席の状況(3人分合算)

前問でお答えいただいたお子さんの長期欠席の状況について近いものを選択してください。

長期欠席の状況について、「昨年度、連続ではないが年間を通じて三十日以上学校を欠席した。現在は欠席が減り、学校に通う事ができている」が最も多く 27.4%、「昨年度、連続ではないが年間を通じて三十日以上学校を欠席した。現在も同じ頻度で欠席している」が 25.6%、「昨年度、一週間以上連続して学校を欠席した期間があり、現在も行っていない」が 25.5% となっている。

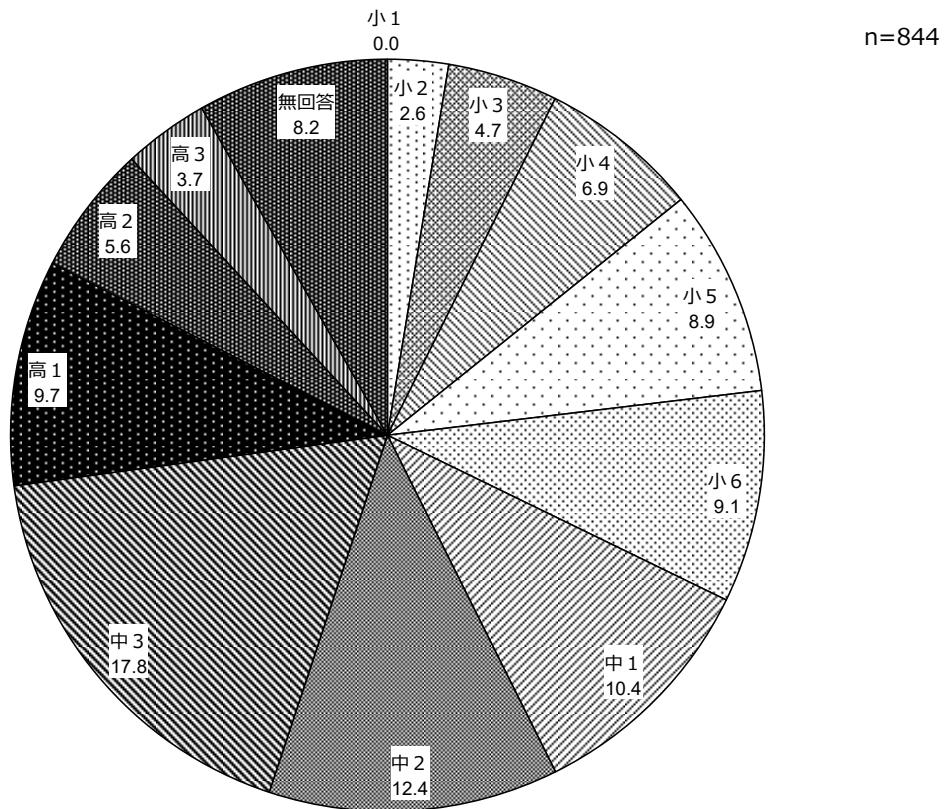
n=844



問 4-1 お子さんの学年(3 人分合算)

お子さんの現在の学年を教えてください。 (回答のあった 3 人分の合計)

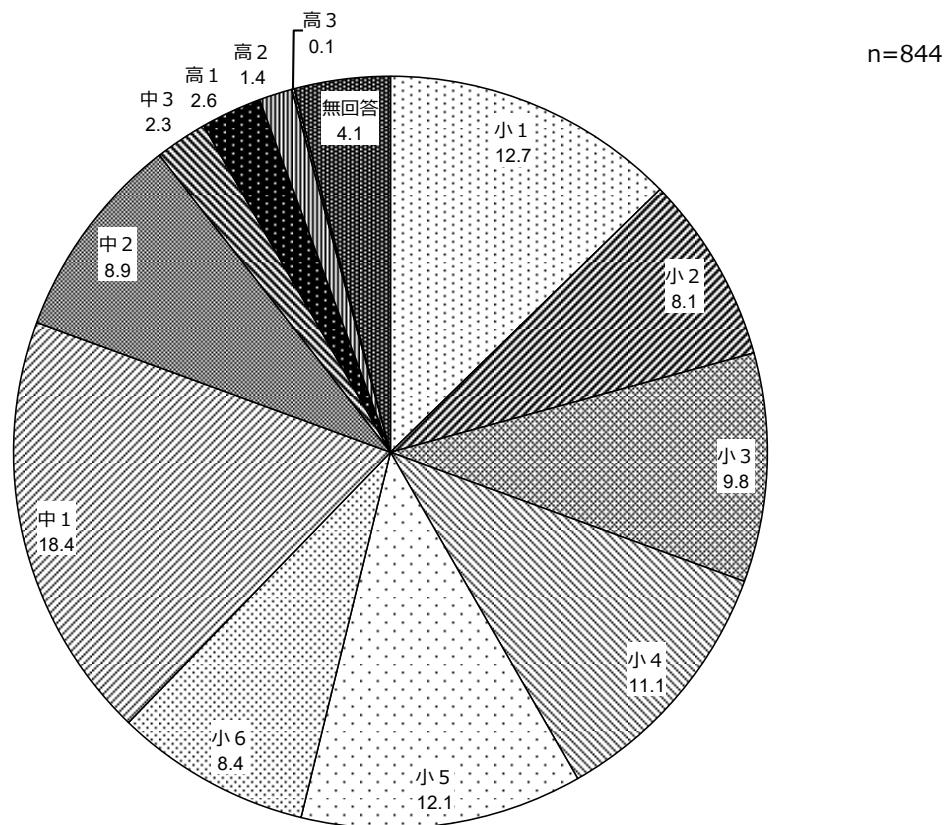
「中 3」が 17.8%、「中 2」が 12.4%、「中 1」が 10.4%となっている。



問 4-2 お子さんの欠席傾向がみられた学年(3人分合算)

お子さんが一番最初に欠席の傾向がみられた学年を教えてください。(回答のあった3人分の合計)

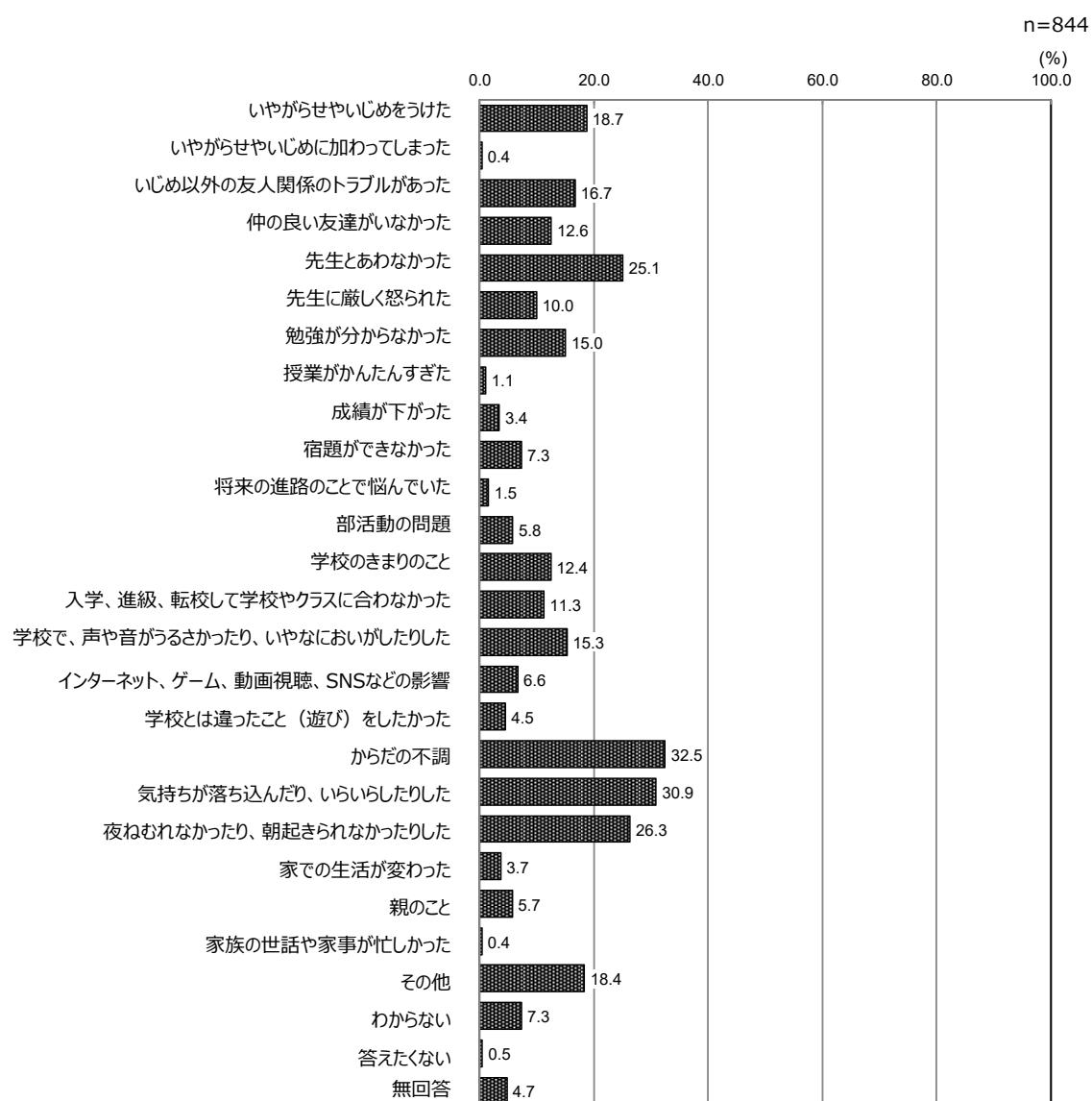
お子さんの欠席傾向がみられた学年について、「中1」が最も多く18.4%、「小1」が12.7%、「小5」が12.1%となっている。



問5 長期欠席の要因・きっかけ(3人分合算)

お子さんが学校を長期欠席していた要因・きっかけは何ですか。(複数回答可)

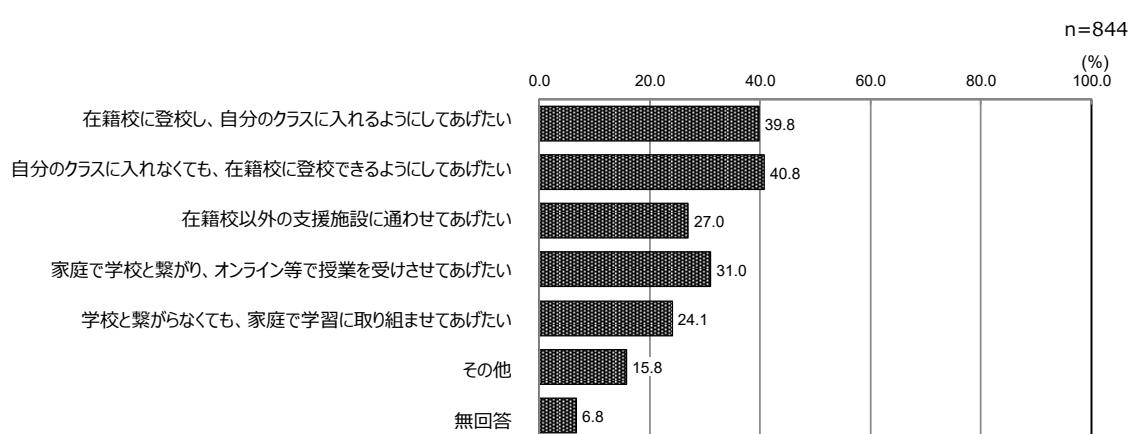
長期欠席の要因・きっかけ(3人分合算)について、「からだの不調」が32.5%、「気持ちが落ち込んだり、いらいらしたりした」が30.9%となっている。



問6 長期欠席時の保護者の感情(3人分合算)

長期欠席をしていた際、お子さん(3人分合算)の状況に対して保護者としてどのように感じていたかご回答ください。(複数回答可)

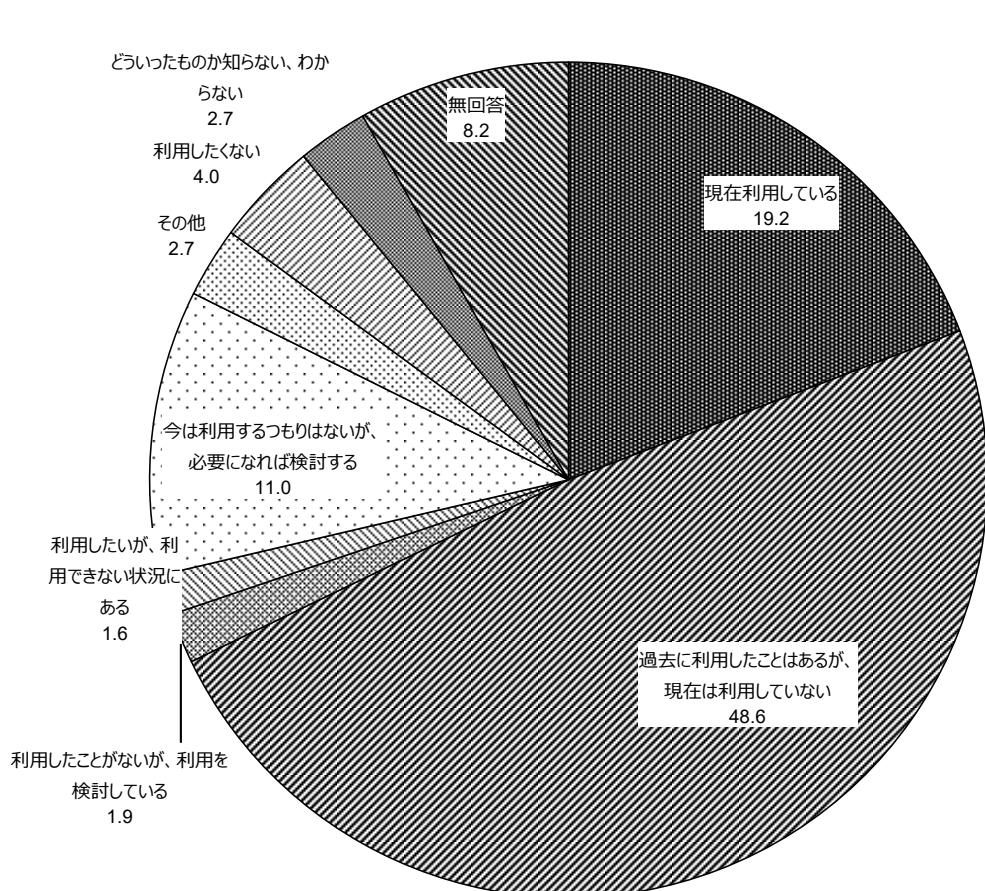
長期欠席時の保護者の感情について、「自分のクラスに入れなくても、在籍校に登校できるようにしてあげたい」が最も多く40.8%、「在籍校に登校し、自分のクラスに入れるようにしてあげたい」が 39.8%、「家庭で学校と繋がり、オンライン等で授業を受けさせてあげたい」が 31.0%となって いる。



問 8-1-1 スクールカウンセラー利用有無

スクールカウンセラー(SC)を利用したことはありますか。(一人でも利用実績等があれば利用しているとお答えください)

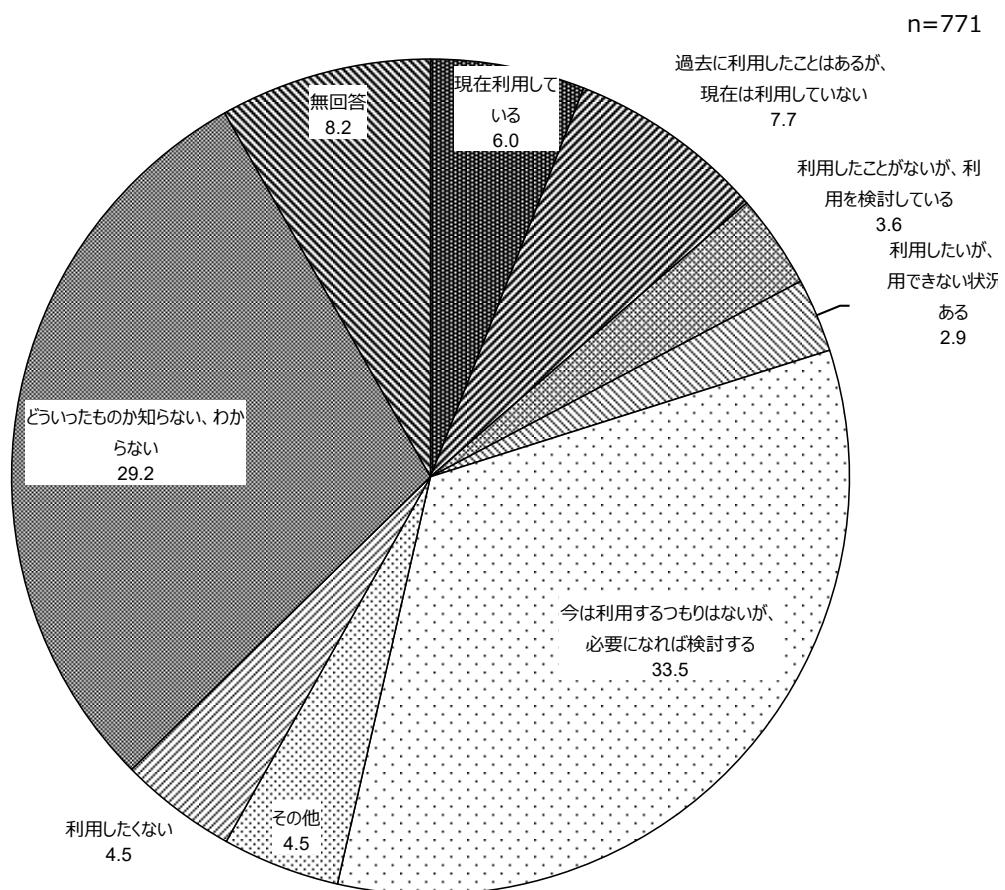
スクールカウンセラー利用有無について、「過去に利用したことはあるが、現在は利用していない」が最も多く 48.6%、「現在利用している」が 19.2%、「今は利用するつもりはないが、必要にすれば検討する」が 11.0%となっている。



問 8-1-2 スクールソーシャルワーカー利用有無

スクールソーシャルワーカー(SSW)を利用したことはありますか。(一人でも利用実績等があれば利用しているとお答えください)

スクールソーシャルワーカー利用有無について、「今は利用するつもりはないが、必要になれば検討する」が最も多く 33.5%、「どういったものか知らない、わからない」が 29.2% となっている。

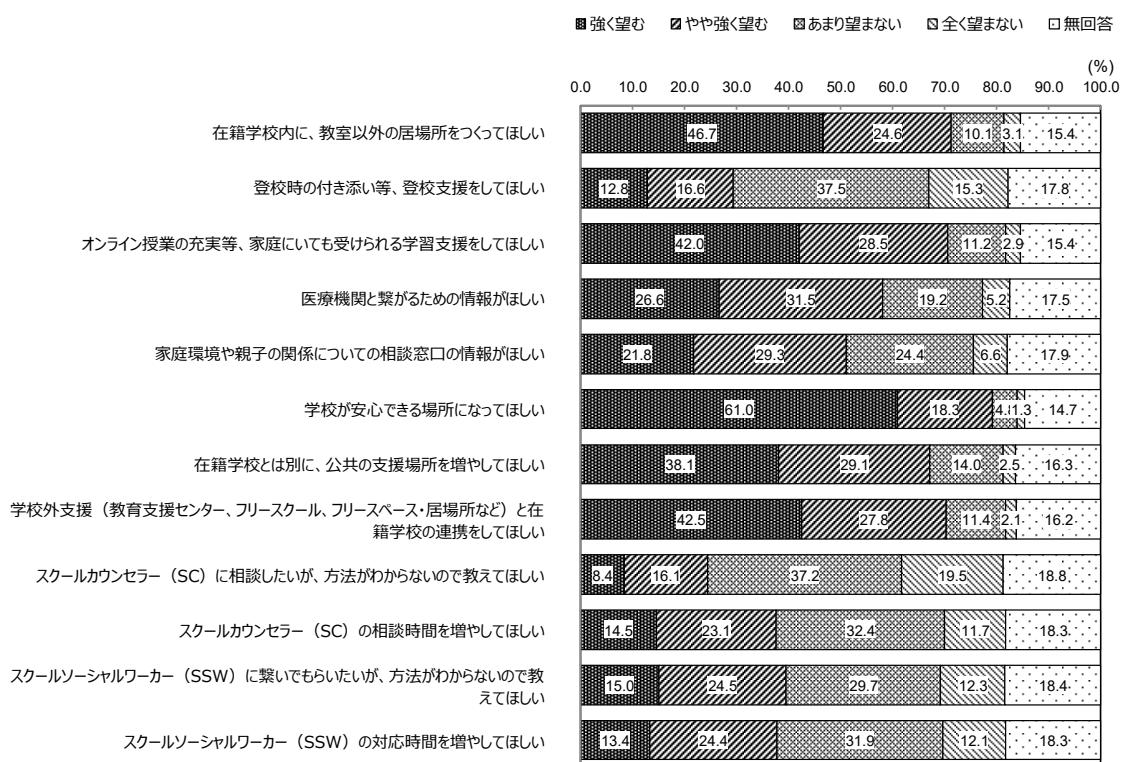


問9 学校(教育委員会)に求める支援

学校(教育委員会)に求める支援はありますか。

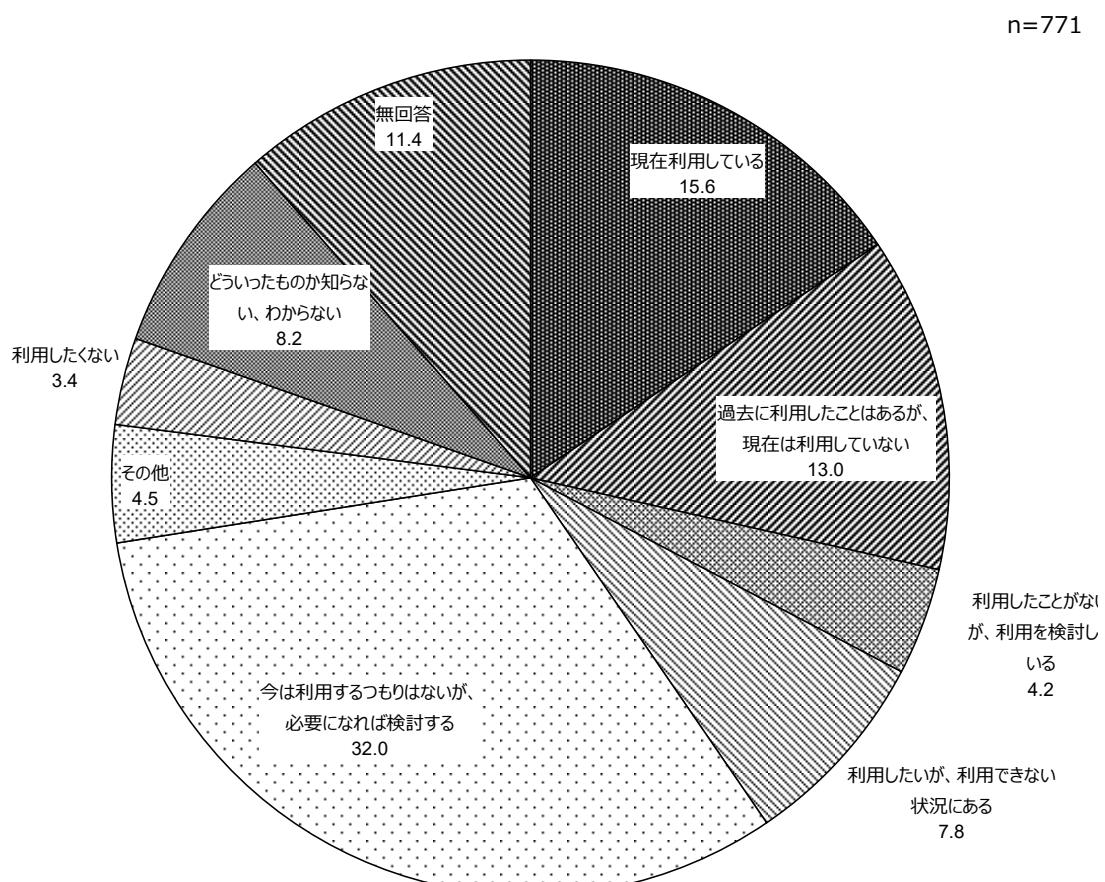
学校(教育委員会)に求める支援について、強く望むことは、「学校が安心できる場所になってほしい」が最も多く 61.0%、「在籍学校内に、教室以外の居場所をつくってほしい」が 46.7%、「学校外支援(教育支援センター、フリースクール、フリースペース・居場所など)と在籍学校の連携をしてほしい」が 42.5%となっている。

n=771



問10 学校外支援(教育支援センター、フリースクール、フリースペース・居場所など)の利用状況
学校外支援(教育支援センター、フリースクール、フリースペース・居場所など)の利用状況をお答えください。(最も近いものを1つ)

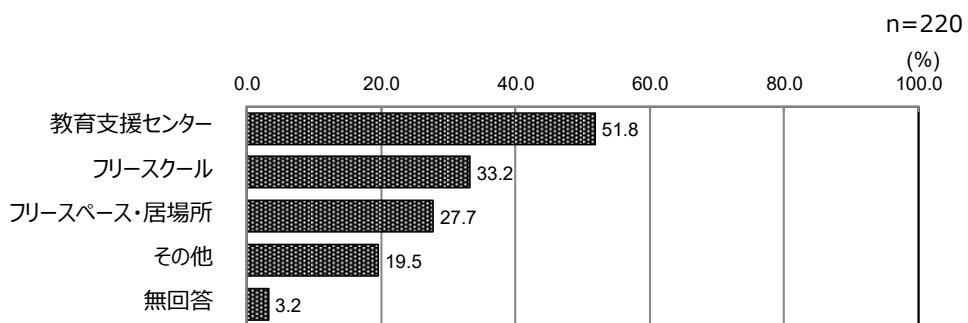
学校外支援の利用状況について、「今は利用するつもりはないが、必要になれば検討する」が最も多く32.0%、「現在利用している」が15.6%、「過去に利用したことはあるが、現在は利用していない」が13.0%となっている。



問 11 学校外支援の利用状況

利用したことのある学校外支援を全て選んでください。(複数回答可)

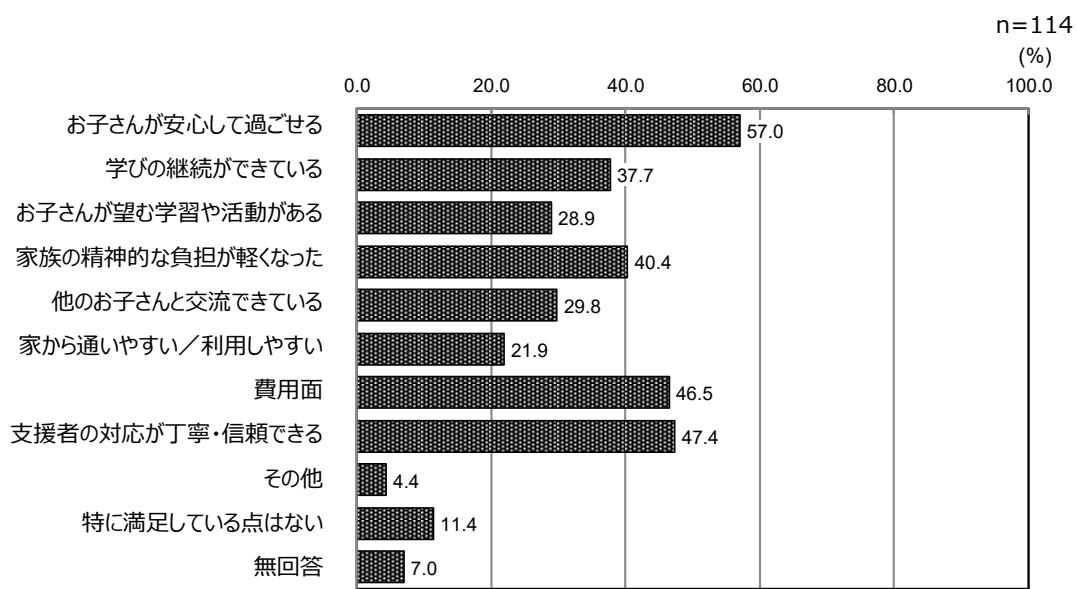
学校外支援の利用状況について、「教育支援センター」が最も多く 51.8%、「フリースクール」が 33.2%、「フリースペース・居場所」が 27.7%となっている。



問 12-1 教育支援センターについて

教育支援センターについて、満足している点を選んでください。(複数回答可)

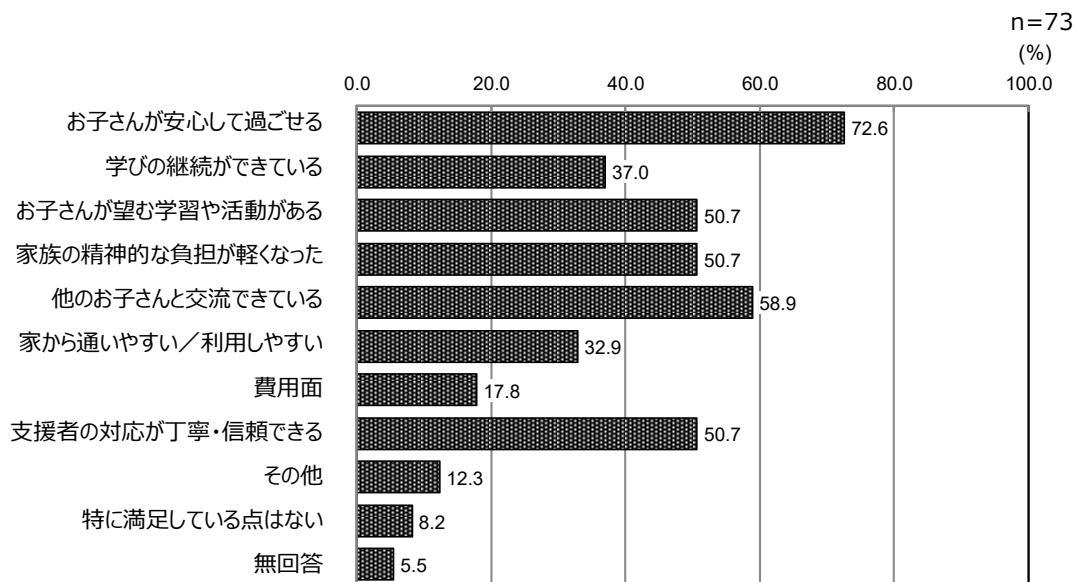
教育支援センターについて、「お子さんが安心して過ごせる」が最も多く 57.0%、「支援者の対応が丁寧・信頼できる」が 47.4%、「費用面」が 46.5%となっている。



問 12-2 フリースクールについて

フリースクールについて、満足している点を選んでください。(複数回答可)

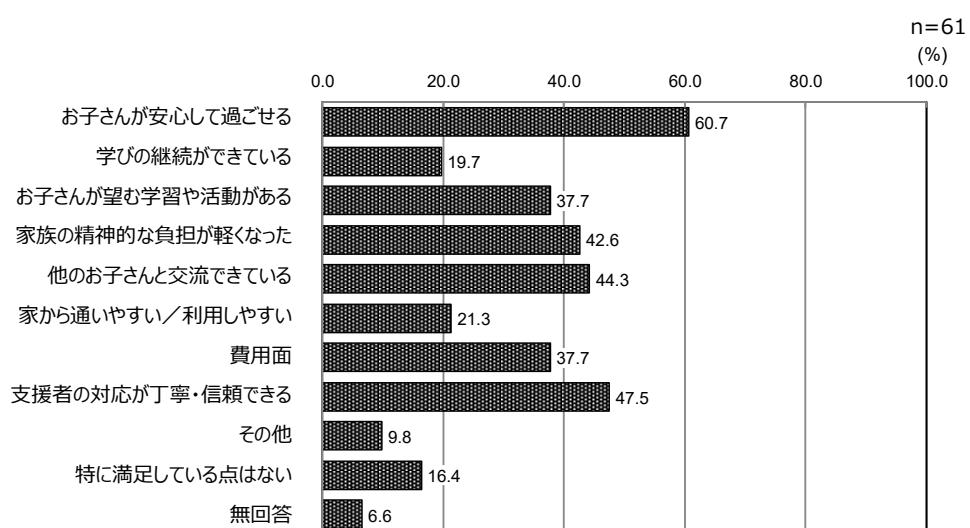
フリースクールについて、「お子さんが安心して過ごせる」が最も多く 72.6%、「他のお子さんと交流できている」が 58.9%となっている。



問 12-3 フリースペース・居場所について

フリースペース・居場所について、満足している点を選んでください。(複数回答可)

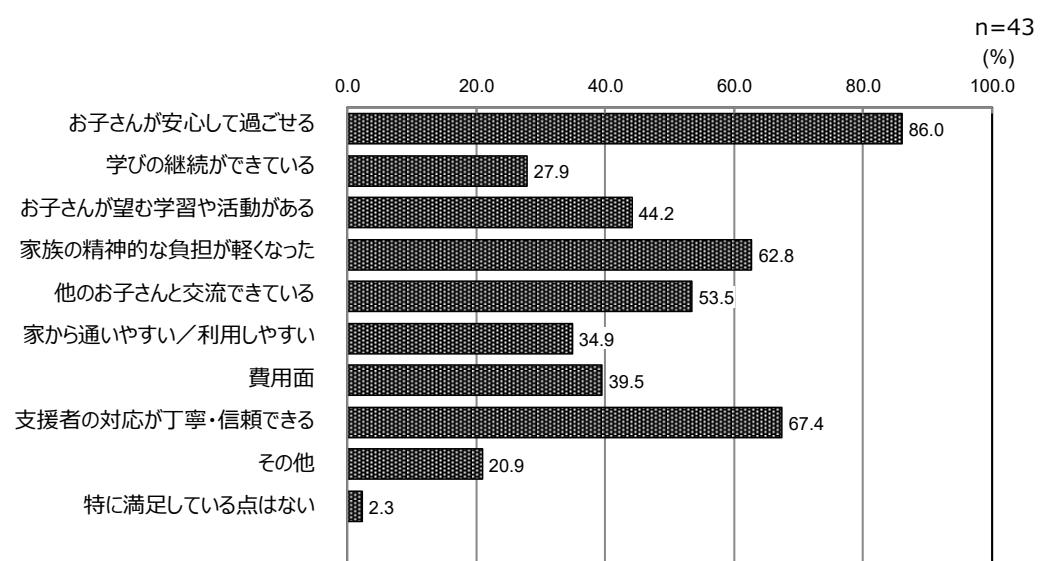
フリースペース・居場所について、「お子さんが安心して過ごせる」が最多く 60.7%、「支援者の対応が丁寧・信頼できる」が 47.5%となっている。



問 12-4 その他の支援について

その他利用したことのある支援について、満足している点を選んでください。(複数回答可)

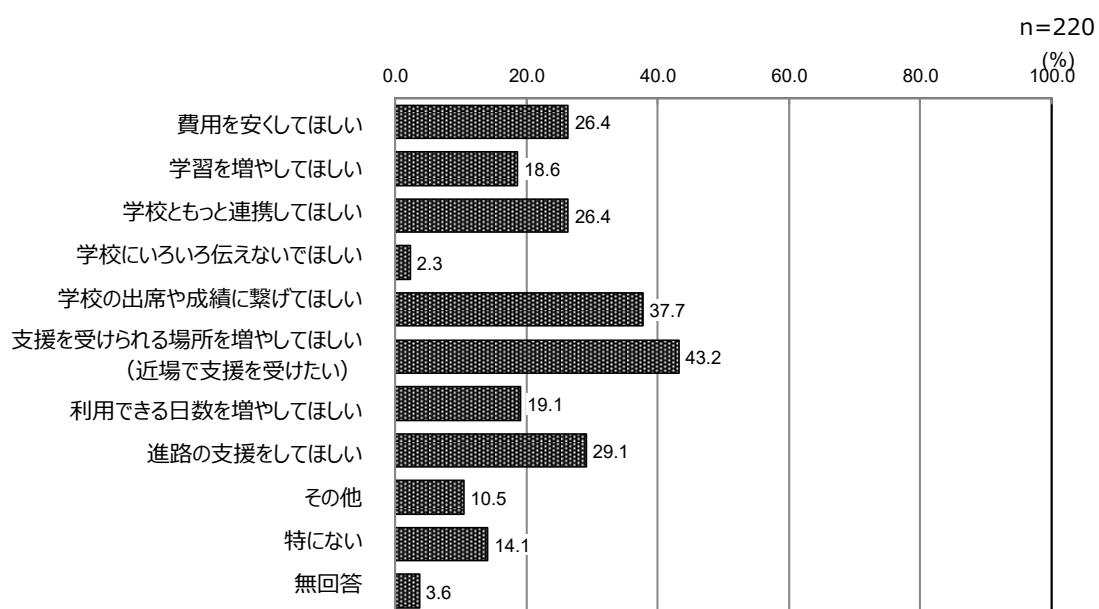
その他の支援について、「お子さんが安心して過ごせる」が最多く 86.0%、「支援者の対応が丁寧・信頼できる」が 67.4%となっている。



問13 学校外支援の改善点

利用したことのある学校外支援について、改善点を選んでください。(複数回答可)

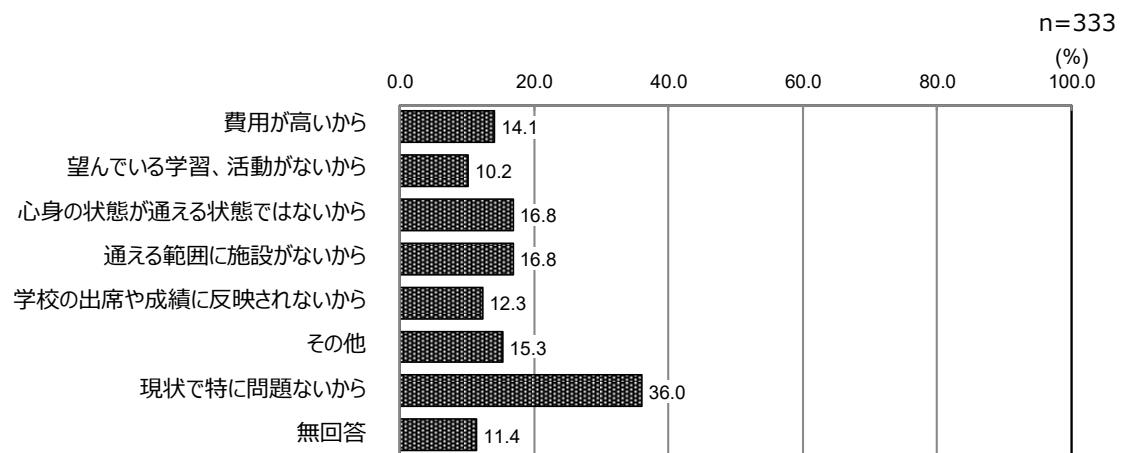
学校外支援の改善点について、「支援を受けられる場所を増やしてほしい(近場で支援を受けたい)」が最も多く 43.2%、「学校の出席や成績に繋げてほしい」が 37.7%、「進路の支援をしてほしい」が 29.1%となっている。



問14 利用できない理由

利用できない、利用しない、したくない理由をお答えください。(複数回答可)

利用できない理由について、「現状で特に問題ないから」が最も多く 36.0%、「心身の状態が通える状態ではないから」「通える範囲に施設がないから」が 16.8% となっている。

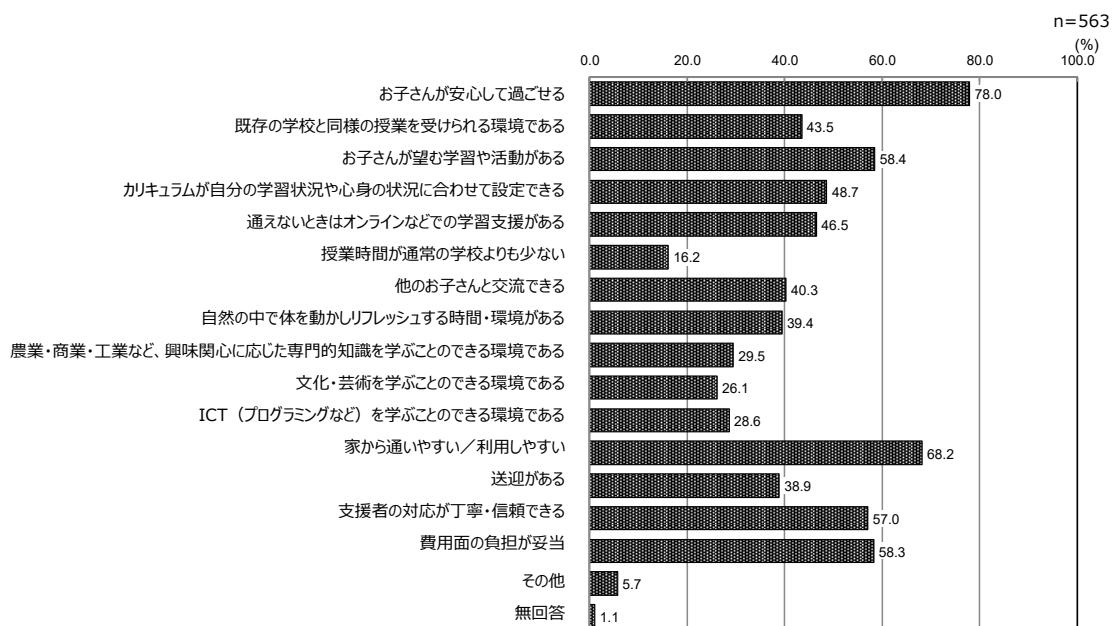


問 15 支援場所への希望

(問 10 の学校外支援の利用状況で「現在利用している」と答えた方以外が対象。)

どのような場所(環境)があれば、お子さんを通わせたいと思いますか。(複数回答可)

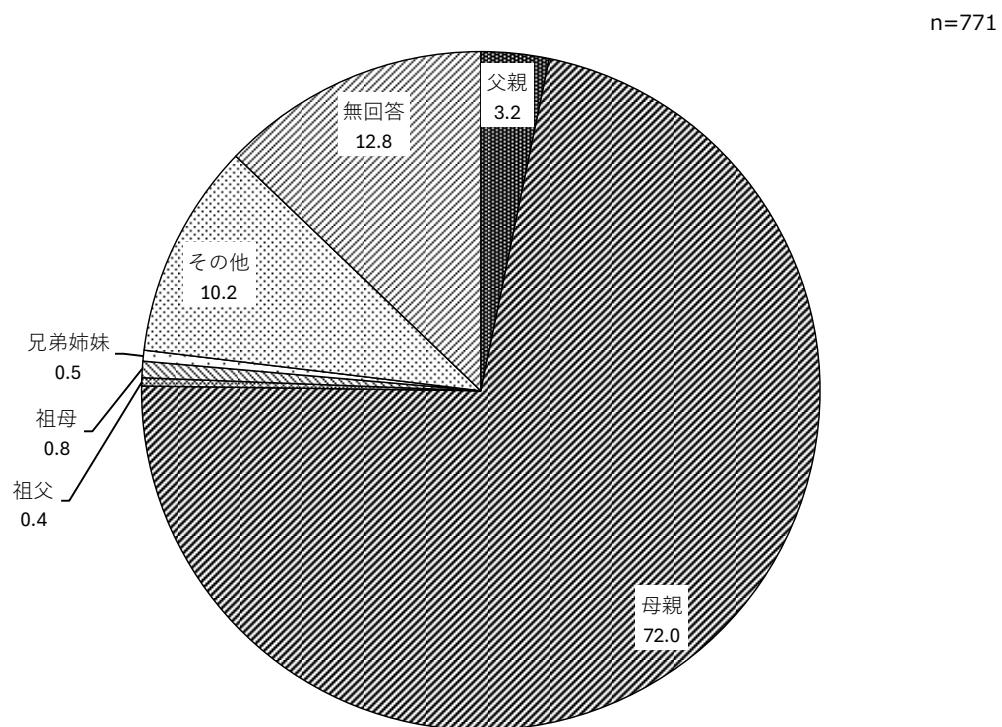
支援場所への希望について、「お子さんが安心して過ごせる」が最も多く 78.0%、「家から通いやすい／利用しやすい」が 68.2%となっている。



問 16 ケアに関与した方

お子さんのケアに最も関与していた方をお答えください。(単一回答)

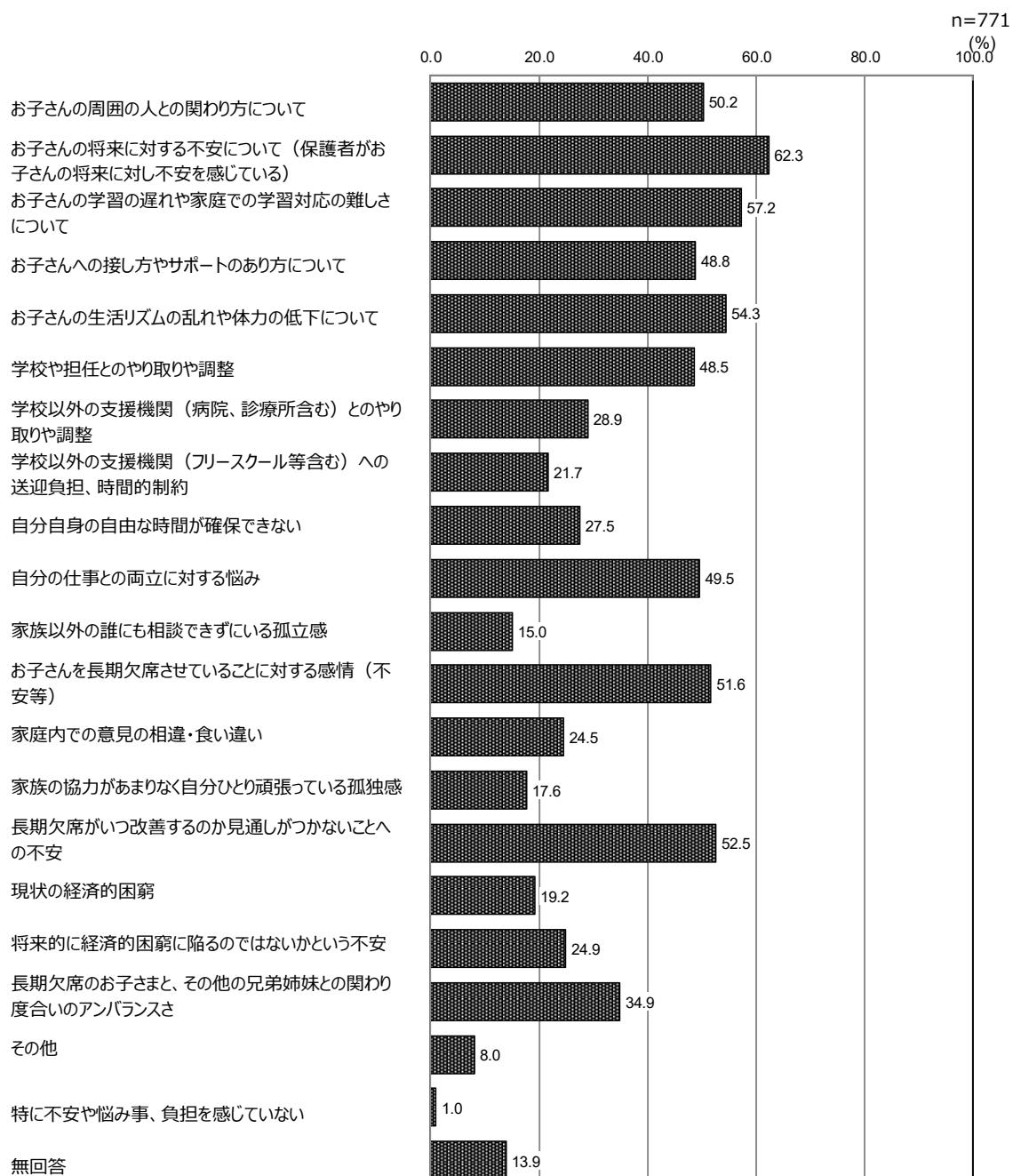
ケアに関与した方について、「母親」が最も多く72.0%、「無回答」が12.8%、「その他」が10.2%となっている。



問17 支援時の感情、負担

お子さんを支える中で感じた不安や悩み事、精神的・身体的な負担についてお答えください。(複数回答可)

支援時の感情、負担について、「お子さんの将来に対する不安について(保護者がお子さんの将来に対し不安を感じている)」が最も多く 62.3%、「お子さんの学習の遅れや家庭での学習対応の難しさについて」が 57.2%となっている。

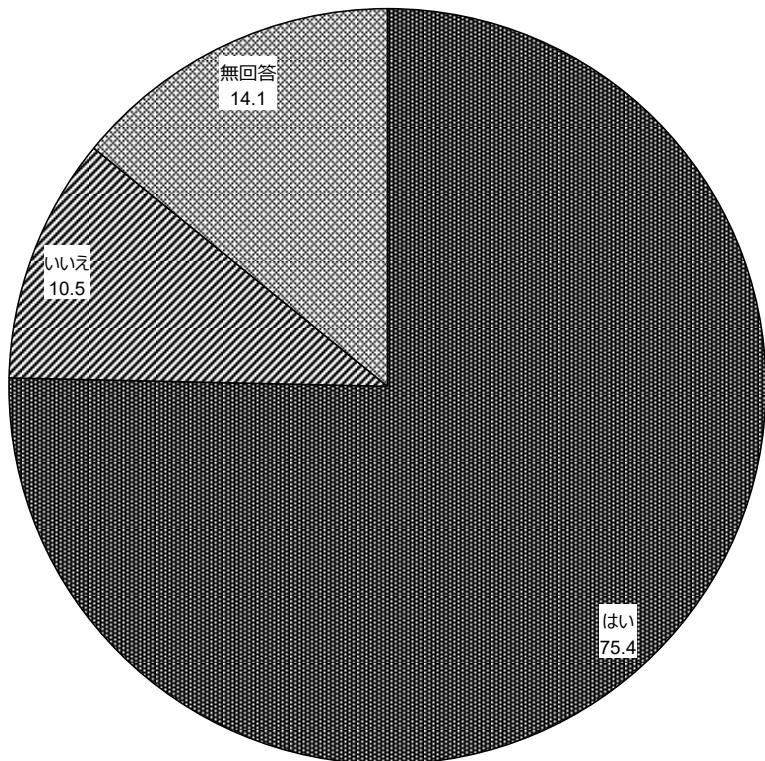


問 18 相談相手について

長期欠席のお子さんについて相談できる相手はいましたか。(単一回答)

相談相手について、「はい」(相談相手がいる人)が 75.4%、「いいえ」(相談相手がない人)が 10.5%となっている。

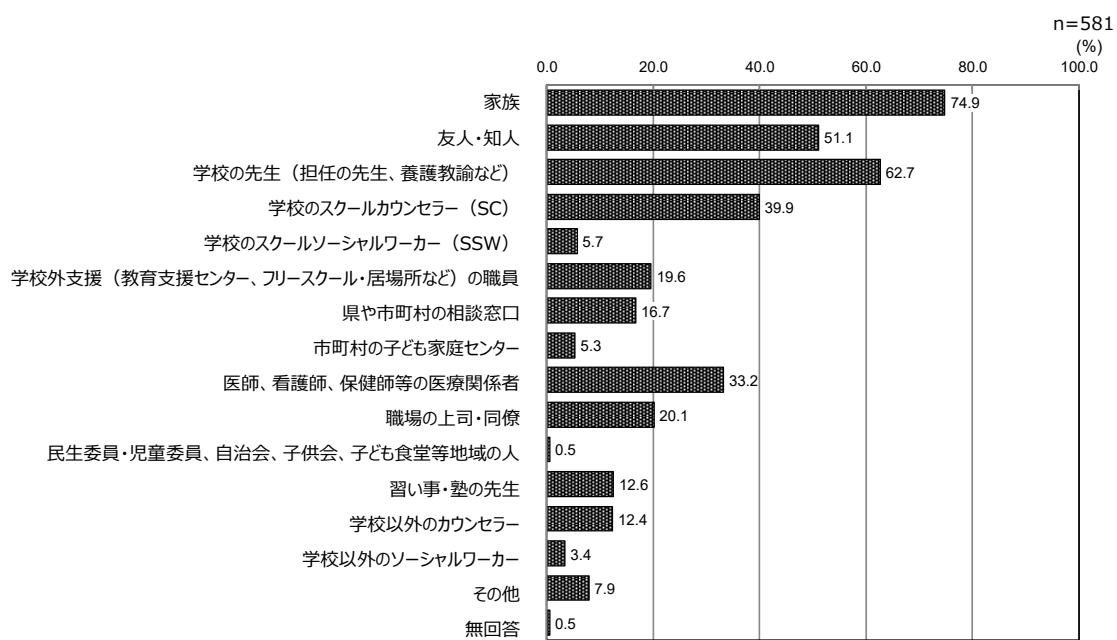
n=771



問19 相談相手の具体例

相談した相手はだれですか。(もしくは相談した機関はどこですか。)(複数回答可)

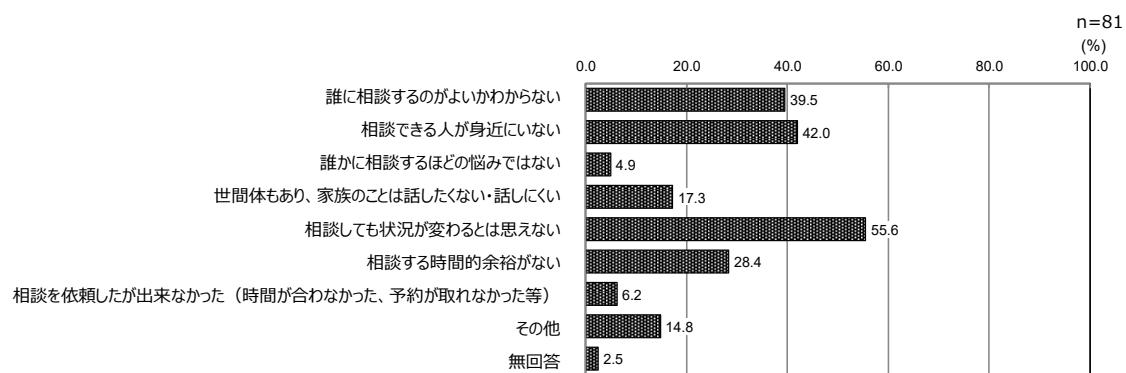
相談相手の具体例について、「家族」が最も多く 74.9%、「学校の先生(担任の先生、養護教諭など)」が 62.7%となっている。



問 20-1 相談できなかった理由

相談できなかった・しなかった理由を教えてください。(複数回答可)

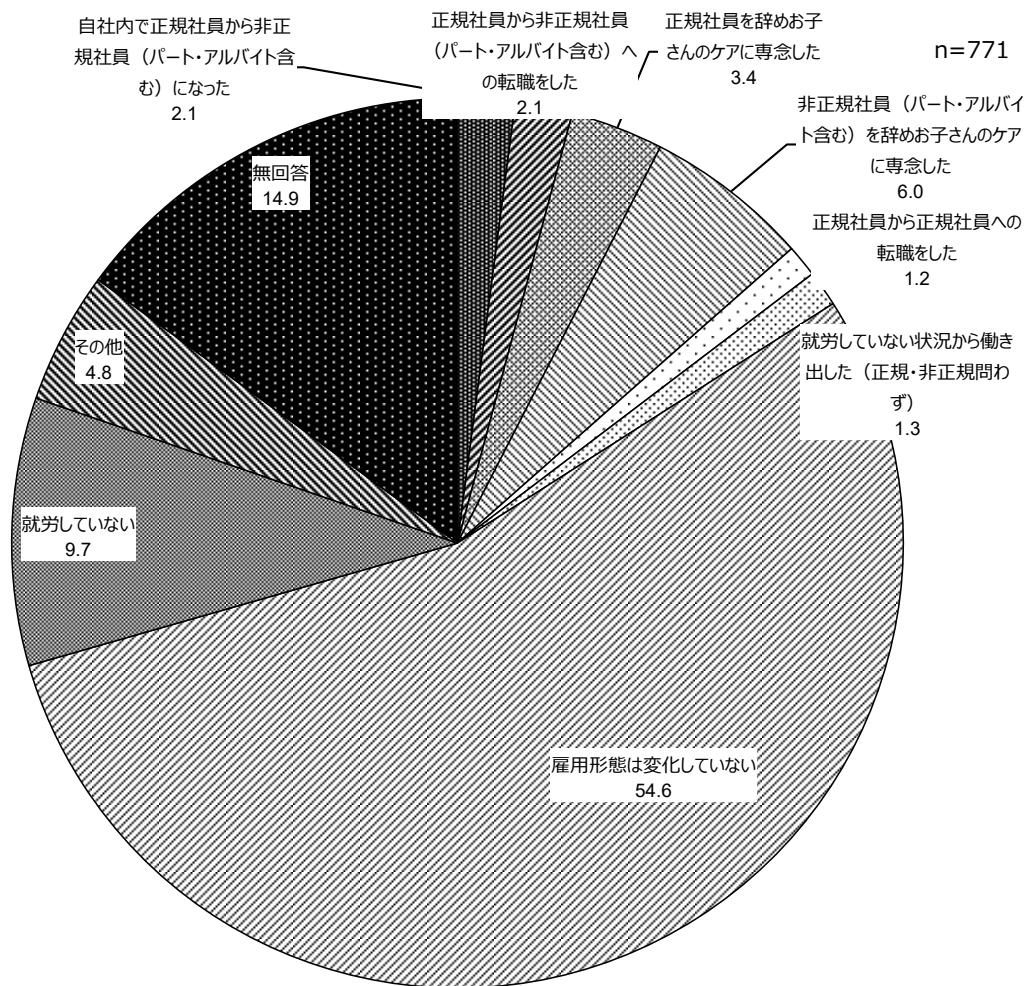
相談できなかった理由について、「相談しても状況が変わるとは思えない」が最も多く 55.6%、「相談できる人が身近にいない」が 42.0%、「誰に相談するのがよいかわからない」が 39.5%となっている。



問21 雇用形態の変化

お子さんのケアに起因したあなたの雇用形態の変化についてお答えください。(単一回答)

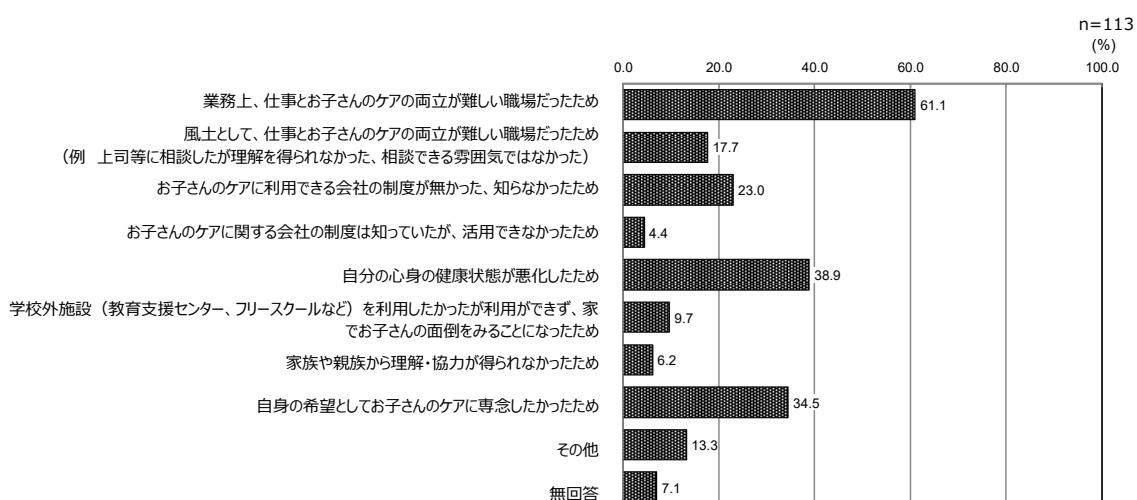
雇用形態の変化について、「雇用形態は変化していない」が最も多く 54.6%、「無回答」が 14.9%、「就労していない」が 9.7% となっている。



問 22 雇用形態を変えた理由

正規社員・非正規社員を辞めた、雇用形態を変えた理由はなんですか。(複数回答可)(問 21 で「自社内で正規社員から非正規社員(パート・アルバイト含む)になった」「正規社員から非正規社員(パート・アルバイト含む)への転職をした」「正規社員を辞めお子さんのケアに専念した」「非正規社員(パート・アルバイト含む)を辞めお子さんのケアに専念した」「正規社員から正規社員への転職をした」と回答した人対象)

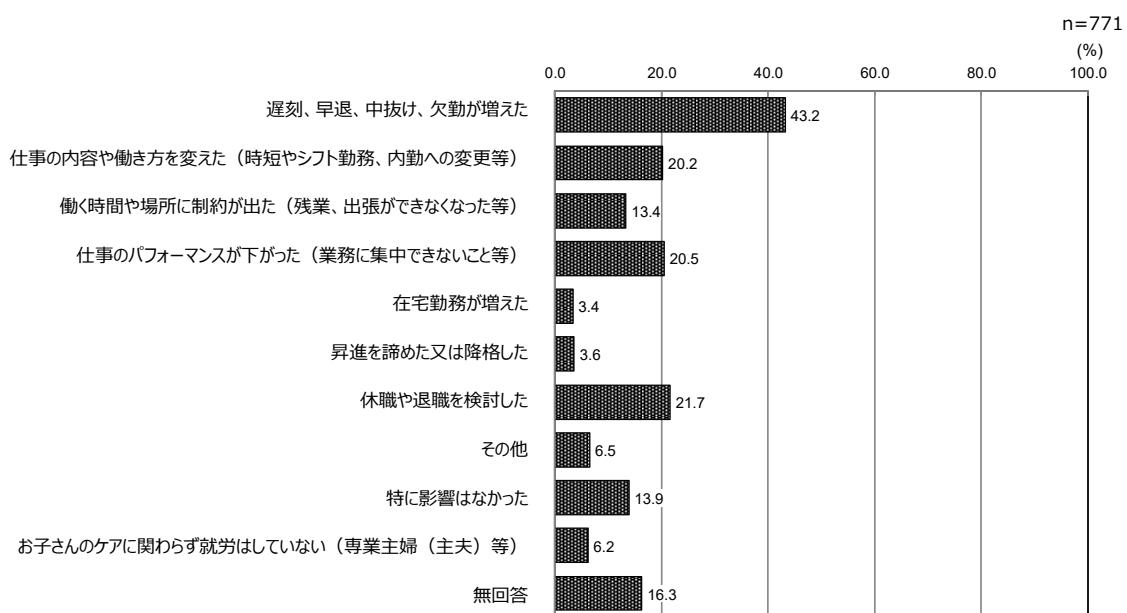
雇用形態を変えた理由について、「業務上、仕事とお子さんのケアの両立が難しい職場だったため」が最も多く 61.1%、「自分の心身の健康状態が悪化したため」が 38.9%、「自身の希望としてお子さんのケアに専念したかったため」が 34.5% となっている。



問 23 働き方の変化

お子さんのケアのために、働き方に変化はありましたか。(複数回答可)

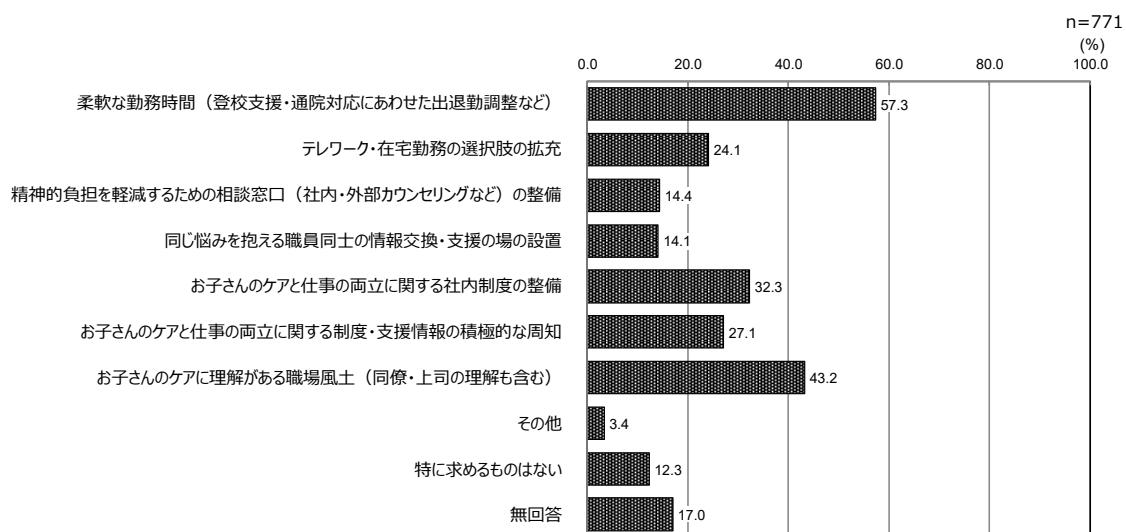
働き方の変化について、「遅刻、早退、中抜け、欠勤が増えた」が最も多く43.2%、「休職や退職を検討した」が21.7%となっている。



問 24 仕事と両立させるために必要なこと

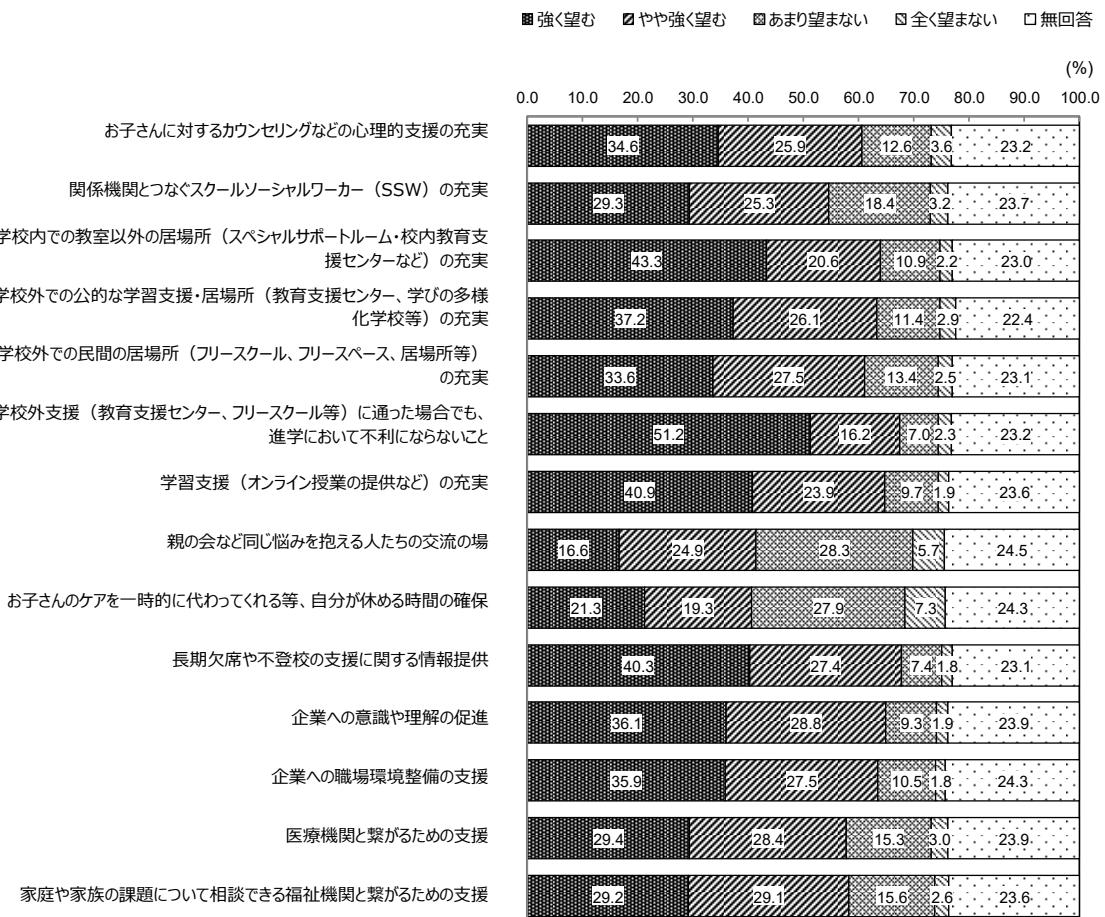
勤務先において、お子さんのケアと仕事を両立させるために何を求めるか。(複数回答可)

仕事と両立させるために必要なことについて、「柔軟な勤務時間(登校支援・通院対応にあわせた出退勤調整など)」が最も多く57.3%、「お子さんのケアに理解がある職場風土(同僚・上司の理解も含む)」が43.2%となっている。



問 26 お子さまの長期欠席に対して、行政に望む支援

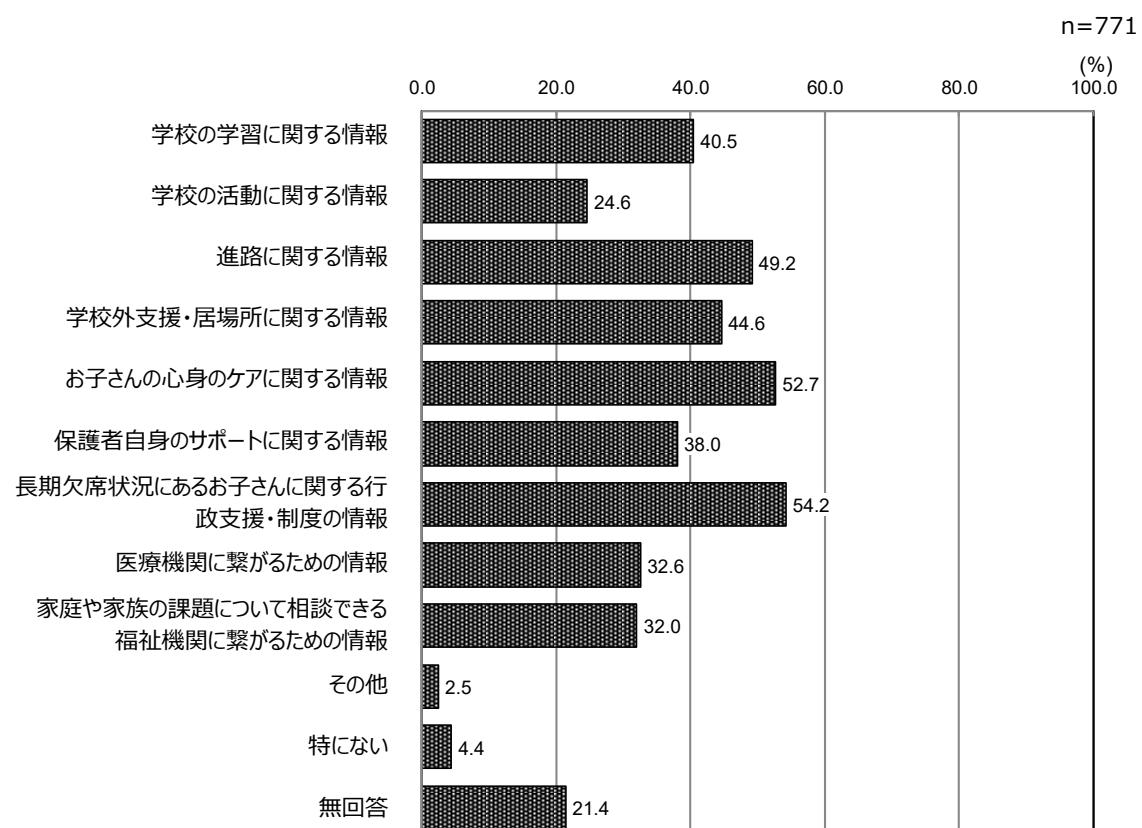
行政に望む支援について、強く望むことは、「学校外支援(教育支援センター、フリースクール等)に通った場合でも、進学において不利にならないこと」が 51.2%、「学校内での教室以外の居場所(スペシャルサポートルーム・校内教育支援センターなど)の充実」が 43.3%となっている。



問 27 学校や行政からの情報

学校や行政から、どういった情報を受け取りたいですか。(複数回答可)

学校や行政からの情報について、「長期欠席状況にあるお子さんに関する行政支援・制度の情報」が最も多く 54.2%、「お子さん的心身のケアに関する情報」が 52.7% となっている。



問 28 追加ヒアリング調査への協力

ご回答いただいた内容の深堀のため、追加ヒアリング調査にご協力いただけるかご回答ください。
(単一回答)

追加ヒアリング調査への協力について、「いいえ」が最も多く51.8%、「はい」が27.5%となっている。
る。

